

主 催：(一社)東京建築士会
協 力：(公財)ギャラリー エー クワッド
後 援：(公社)日本建築士会連合会
 (一社)東京都建築士事務所協会
 (一社)日本建築学会 関東支部
 (公社)日本建築家協会 関東甲信越支部
 (株)新建築社
 『日経アーキテクチュア』

特別協賛：(株)総合資格

一般社団法人 東京建築士会
〒104-6204 東京都中央区晴海1-8-12
オフィスタワーZ棟 4F(晴海トリトンスクエア内)
[TEL] 03-3536-7711 [FAX] 03-3536-7712
[E-mail] info@tokyokenchikushikai.or.jp
[URL] http://www.tokyokenchikushikai.or.jp

[カタログ]
企画・編集：鷺海浩康、梅津洋佑／一般社団法人 東京建築士会
デザイン・制作：株式会社 ケシオン
発 行：一般社団法人 東京建築士会

© 一般社団法人 東京建築士会 2013

vol.13
JUTAKU
KADAI
2013
住宅課題賞 2013
建築系大学
住宅課題優秀作品展
RESIDENTIAL STUDIO PROJECT AWARD 2013

[開場日時]

2013年10月7日(月)ー10月25日(金) 土・日・祝日休館(19日(土)は開館)
10:00～18:00(最終日16:00まで)

[会 場]

ギャラリー エー クワッド
所在地：〒136-0075東京都江東区新砂1-1-1 竹中工務店 東京本店1F
TEL:03-6660-6011 http://www.a-quad.jp


GALLERY A4

vol.13
JUTAKU
KADAI
2013

住宅課題賞 2013
建築系大学
住宅課題優秀作品展

RESIDENTIAL
STUDIO PROJECT
AWARD 2013

ごあいさつ

東京建築士会は、東京都の建築士有資格者団体として、また東京都指定登録機関として建築士の業務の進歩改善と品位の維持向上を図り、さらに生活環境の向上と建築文化の進展に寄与することを目的として、様々な活動を通し、建築情報を提供しながら建築士制度の普及に努めています。

その一環として、毎年、市民の皆さまに建築士の理解を深めていただく機会として、建築の展示会を開催しています。

平成13年より企画して参りました「住宅課題賞」入選作品展（建築系大学住宅課題優秀作品展）は、本年も昨年に引き続き、ギャラリー エー クウッドのご協力により、同会場において実施する運びとなりました。この企画は13回目を迎えましたが、さらに参加大学が増え、本年は35大学44学科の参加・出展をいただいています。

「住宅課題賞」は、首都圏の建築系大学より、設計授業の住宅課題の優秀作を募り展示し、さらにこの中から公開審査により特に優れた作品を「優秀賞」として選出し顕彰しています。

本賞は建築の基本である住宅の設計を通して、建築を学ぶ学生の皆さんに、その楽しさと社会的な意義への認識を深めていただくと同時に、建築士会会員をはじめ第一線で活躍されている建築士と各大学間における建築教育の情報交換と学生間の交流の場を目的として企画されたものです。

今後の建築界を担う学生のみならず、建築教育を担う大学にとっても有意義なものになると考えています。

この入選作品を公開展示することにより、建築に携わる方々への新鮮な刺激と、より多くの人々に建築への理解をより一層深めていただける機会となれば幸いです。

なお、本展に際し、企画運営にご協力いただきましたギャラリー エー クウッドをはじめ、ご協力いただきました関係各位に厚く御礼申し上げます。

2013年10月
一般社団法人 東京建築士会

公開審査

【日時】

2013年10月19日(土) 13:00～17:00

【会場】

竹中工務店 東京本店 2F Aホール

【審査員】

審査員長：植田 実（編集者・建築評論家）

審査員：金田 充弘（Arup／東京芸術大学建築科准教授）

川辺 直哉（川辺直哉建築設計事務所）

坂下 加代子（中央アーキ）

宮 晶子（STUDIO 2A／日本女子大学住居学科准教授）

司 会：木下 庸子（設計組織 ADH／工学院大学建築学部教授）

出展規定

【参加条件】

貴大学で行われている住宅設計課題の優秀作品を1作品推薦。学部生、1年～3年時の作品（作成時）とする。課題作品は、平成24年9月（前年後期）以降のものとする。出題ペーパーと学生の作品（図面及び模型）両方を展示する。

【出展規定】

図面：A1版（縦841mm×横594mm）縦使いに統一、1枚とする。

5ミリのスチレンボードなどに貼られたもので、ぶら下げられる重さのものとし、枠はなしとする。

模型：縮尺は1/50に原則統一、1点とする。大きさは、幅1,100mm×奥行700mmの範囲内に収まるものとする。

但し、作品規模により、上記に収まるものであれば、縮尺は要相談。

【賞】

各大学から選ばれた段階で、「住宅課題賞」入選とする。さらに展示作品の中から「住宅課題賞優秀賞」数点が選ばれる。

【審査方法】

公開審査とする。

参加大学：35大学44学科

01. 宇都宮大学 工学部 建設学科 建築学コース
02. 神奈川大学 工学部 建築学科 デザインコース
03. 関東学院大学 工学部 建築学科 建築コース
04. 共立女子大学 家政学部 建築・デザイン学科 建築コース
05. 慶応義塾大学 (SFC) 総合政策学部・環境情報学部 総合政策学科・環境情報学科
06. 工学院大学 建築学部 建築学科
07. 工学院大学 建築学部 建築デザイン学科
08. 工学院大学 工学部 建築学科 建築学コース
09. 国士館大学 理工学部 理工学科 建築学系
10. 芝浦工業大学 工学部 建築学科
11. 首都大学東京 都市環境学部 都市環境学科 建築都市コース
12. 昭和女子大学 生活科学部 環境デザイン学科 建築・インテリアデザインコース
13. 女子美術大学 芸術学部 デザイン・工芸学科 環境デザイン専攻
14. 多摩美術大学 美術学部 環境デザイン学科
15. 千葉工業大学 工学部 建築都市環境学科 建築設計コース
16. 筑波大学 芸術専門学群 デザイン専攻 建築デザイン領域
17. 東海大学 工学部 建築学科
18. 東京大学 工学部 建築学科
19. 東京家政学院大学 現代生活学部 生活デザイン学科
20. 東京芸術大学 美術学部 建築科
21. 東京電機大学 未来科学部 建築学科
22. 東京都市大学 工学部 建築学科
23. 東京理科大学 工学部第一部 建築学科
24. 東京理科大学 工学部第二部 建築学科
25. 東京理科大学 理工学部 建築学科
26. 東洋大学 理工学部 建築学科
27. 日本大学 生産工学部 建築工学科 建築総合コース
28. 日本大学 生産工学部 建築工学科 建築環境デザインコース
29. 日本大学 生産工学部 建築工学科 居住空間デザインコース
30. 日本大学 理工学部 建築学科
31. 日本大学 理工学部 海洋建築工学科
32. 日本工業大学 工学部 建築学科
33. 日本工業大学 工学部 生活環境デザイン学科
34. 日本女子大学 家政学部 住居学科 建築デザイン専攻
35. 文化学園大学 造形学部 建築・インテリア学科 住居デザインコース
36. 法政大学 デザイン工学部 建築学科
37. 前橋工科大学 工学部 建築学科
38. 武蔵野大学 環境学部 環境学科 都市環境専攻
39. 武蔵野美術大学 造形学部 建築学科
40. 明海大学 不動産学部 不動産学科 デザインコース
41. 明治大学 理工学部 建築学科
42. ものつくり大学 技能工芸学部 建設学科 建築デザインコース
43. 横浜国立大学 理工学部 建築都市・環境学科 建築EP
44. 早稲田大学 理工学術院 創造理工学部 建築学科



01 「集合住宅」集まって住むこと、いろいろな「関係」を考える。
宇都宮市中心を流れる釜川沿いでは、かつて路を介した人々の賑わいが存在した。現在では雑貨屋等販売の場とアトリエ等創造の場が集約する。そこでこれらの軌跡が共生する場を考えた。内外連続した作業場を川側に販売、奥に創造と配置し、各々の場を路が貫通する。通りから垣間見える路の賑わいは、行き交う人々を引き込み、物と人が繋がった住まいは、釜川沿いの時を編む風景を創出する。



野村 洋介 (ノムラ ヨウスケ) 宇都宮大学
工学部 建設学科 建築学コース／3年
課題出題時学年:2年
出題教員名:安森 亮雄
指導教員名:吉松 均



02 エッジに建つ住宅
都市と農村のエッジである敷地に、地域に対する受け皿となる住宅を提案した。料理教室の要素を付加し、食を通じて人と人、人と農地がつながる機会と場を提供する。1階の中心に台所を置き、川沿いの散歩道に対して開放性を持たせ、台所から2階の家族空間へとブライバシーを緩やかに高めた。地域を家とみなすと、農地は庭、住宅は部屋となり、ここは地域の食卓となる。



前田 冴 (マエダ サエ) 神奈川大学
工学部 建築学科 デザインコース／3年
課題出題時学年:2年
出題教員名:三笠 友洋
指導教員名:早草 睦恵



03 庭をもつ2世帯住宅
「外部」と「内部」の境界はなにか、「庭」はどうあるべきなのかを考えた。「土間」や「縁側」などの要素を使うことにより「庭」を内部へ持ち込む事が出来るのではないか。また、一番身近の他人が住む2世帯住宅で各自が独立しているながら「土間」を通して生活が成り立ち、賑わいを生む。



千葉 春波 (チバ ハナ) 関東学院大学
工学部 建築学科 建築コース／3年
課題出題時学年:3年
出題教員名:黒田 泰介
指導教員名:黒田 泰介、古賀 紀江、杉 千春、高橋 潤、野上 恵子



04 場の魅力を活かす
都心の小さな敷地に、単身者の仮住まいを想定した集合住宅を計画した。中央に階段室を設け、4つの住まいを引っ掛けた。間口1.1mほどの住まいはとても狭く、暮らしていくうちに物であふれてしまう。そこで、住民が引っ越したり、蚤の市をはじめたり、狭いながらもポジティブに空間を利用することにより、人々が流動的に動く都市において、建物全体が他者と繋がるきっかけの場になる。



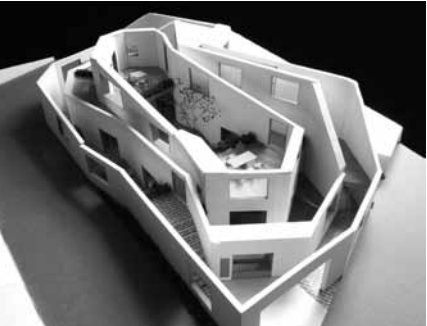
太田 花奈 (オオタ カナ) 共立女子大学
家政学部 建築・デザイン学科 建築コース／3年
課題出題時学年:2年
出題教員名:高橋 大輔
指導教員名:高橋 大輔



05 デザインスタジオ棟F
慌たしく生活する学生たちがほっと一息つけるような空間を、森のような迷路状の建築によって作り上げようと試みた。道路から Condominium につながるデッキは、歩いていくうちに建築のなかに迷い込み、反対側の道路まで通り抜けられるひとかたまりの通路である。建築とランドスケープの融合によって、学生の生活と自然との距離をより密接なものとした。



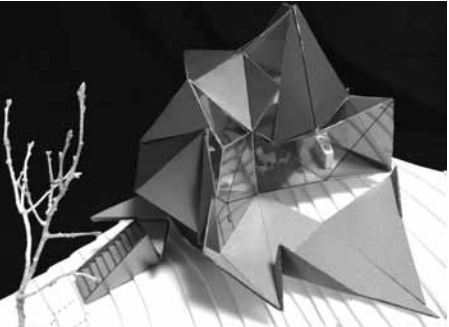
武藤 真理子 (ムトウ マリコ) 慶応義塾大学(SFC)
総合政策学部・環境情報学部 総合政策学科・環境情報学科／2年
課題出題時学年:1年
出題教員名:松川 昌平
指導教員名:木下 庸子、戸田 知佐、松川 昌平



06 外のある家
外を光、緑、風、水などが存在するところと捉え、その外と家の内をより近づけるため、外→内→外、内→外→内を視線でつなぐことによりそれを実現しようとした。その方法として、3つの輪のような壁を作り、外→内→外…という空間を作ることにより、回遊する外→内→外、内→外→内を視線でつなぎ、その壁に窓や穴をあけることで輪の中心から外側への外→内→外…の視線をつないだ。



増村 慎之介 (マスムラ シンノスケ) 工学院大学
建築学部 建築学科／2年
課題出題時学年:2年 出題教員名:富永 祥子
指導教員名:西森 陸雄、長澤 泰、赤木 徹也、大塚 篤、石黒 由紀、伊藤 潤一、井上 康、今村 幹、小島 光晴



07 キャンパス内の森の家
森が、どんな形でとらえられるか。私の設計はまずそこからスタートしている。私には、森は一枚の紙をぐしゃぐしゃにしたような形にみえたのである。そこで、この森の中に建つ建物として最も森になじむのは、私がとらえた森のかたちと同じ、紙をぐしゃぐしゃにしたかたちなのだと考えた。また、このような多角面体にすることで、様々な角度から、光や自然の表情を中から覗くことができる。



真野 彩子 (マノ サイコ) 工学院大学
建築学部 建築デザイン学科／2年
課題出題時学年:1年 出題教員名:藤木 隆明
指導教員名:藤木 隆明、遠藤 新、今村 幹、澤崎 宏、原田 智章、半田 雅俊、福山 博之、田島 則行



08 都市居住(都市機能を併設させた新しい集合住宅のかたち)
都市の「隙間」。高密度に配置されていく建築群には民法によって残さなければならない「隙間」が増殖と更新を繰り返す。そこにはかつて存在していたコミュニティの面影はなく生活のアクティビティは内部で完結している。「隙間」は暗く寂しげなものへと姿を変えている…ここに互いの壁厚を操作し、「隙間」へとあふれ出る空間を提案する。



川田 裕 (カワダ ユウ) 工学院大学
工学部 建築学科 建築学コース／4年
課題出題時学年:3年
出題教員名:木下 庸子
指導教員名:木下 庸子、西森 陸雄、小川 真樹、押尾 章治、沢瀬 学

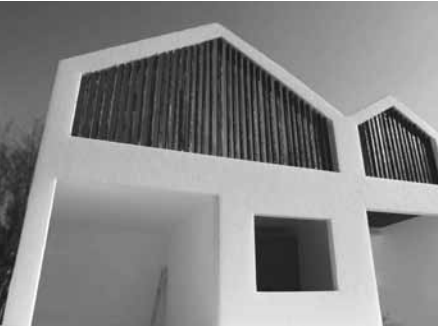


09 超都心に建つ、超高齢者の家

日々都会の景色は変わっていく。新しいビルが建ち、昔の建物が少しずつ減っていく。そんな都会に住むと考えたとき何か変わらずあり続けるものを置けないかと考えた。そこでこの敷地の中心に木を植える。囲うように住空間を配置する。木を通して風を感じ空気をもらう、木の揺れる音を聴き木漏れ日を感じる。その土地にあり続ける木と共に生きる。これが何十年先にもあり続ける住宅となる。



高塚 康貴 (タカツカ コウキ) 国士舘大学
理工学部 理工学科 建築学系／3年
課題出題時学年:2年
出題教員名:南 泰裕
指導教員名:都留 理子



10 様々な変化する生活シーンを考えた住宅

家の「形」もしくは家の「型」とはなんだろうか。何故、人は家を見て、それを家として認識することができるのだろうか。この家は普通の住宅街に建つ普通の「家型」をした家だ。世界中のこどもが描く家は全て切り妻屋根の家だそうだ。住宅街に「家型」が現れると何とも奇妙な体験が生まれる。街にも住まい手にも。実際には無い家型は、はたして幼稚だからなのか。幻だからなのか。



春日 広樹 (カスガ ヒロキ) 芝浦工業大学
工学部 建築学科／3年
課題出題時学年:2年
出題教員名:郷田 修身
指導教員名:郷田 修身



11 心地よく街にひらく住宅

敷地は、連続する塀などによって閉鎖的な印象を受ける、一般的な住宅街の一角である。そこで、閉じることと開くことの両面を持った「く」の字の壁を道路や隣地との関係から配置し、街一敷地一屋内を曖昧な境界でつなぐ。住人は、街に対して積極的にひらいていくのではなく、ただ、ありのままに住むことで間接的に周囲の風景を豊かに変えていく。



熊谷 雄 (クマガイ タケル) 首都大学東京
都市環境学部 都市環境学科 建築都市コース／3年
課題出題時学年:3年
出題教員名:一之瀬 雅之、伊藤 暁、猪熊 純、光嶋 裕介
指導教員名:一之瀬 雅之、伊藤 暁、猪熊 純、光嶋 裕介



12 住宅+店舗のリノベーション

既存の家の出窓を見て、出窓の奥行を戸外・内に伸ばすことで家具・収納というように用途の幅が広がると考えた。出窓によって隣り合う空間の境に壁を設けずに済み、どの空間にいても家族の存在を感じ、共有時間が増える。窓は風景を切り取る一方で、空間や家族の会話、時間を“繋ぐもの”にもなるのだ。によってコンセプトを出窓とし、繋がるの可能性を追求し、様々な使い方を提案した。



沢田 倫子 (サワダ ミチコ) 昭和女子大学
生活科学部 環境デザイン学科 建築・インテリアデザインコース／3年
課題出題時学年:3年
出題教員名:禿 真哉
指導教員名:禿 真哉



13 集合住宅計画

代官山という土地は、古くは山が並ぶ場所であった。現在はその自然を残したままモダン建築を中心に人を集める場所となっている。そんな土地に住むということは、賑わいや騒音と隣り同士で暮らすこととなる。少しでもゆったりと過ごせる空間を提供するため「山小屋」をテーマに、ナチュラルかつモダンな外観で様々なライフスタイルに合わせたメゾネットタイプの住空間を造り出した。



長谷川 優 (ハセガワ ユウ) 女子美術大学
芸術学部 デザイン・工芸学科 環境デザイン専攻／4年
課題出題時学年:3年
出題教員名:飯村 和道
指導教員名:飯村 和道、下田 倫子



14 風景の中の住空間

「木漏れ日のさす家」自然の仕組みを落とし込み、家の中に居ながら自然を感じられるそんな住宅を作りたいと考えた。我々に馴染みのある日本家屋独特の格子や障子を通した間接光と同じで、木々を通して地面に降り注ぐ森の木漏れ日は自然界の間接光なのだ。格子を通した柔らかない光の下で、思いのまわくつらいでほしい。それは自然の仕組みと日本の伝統が共存する新しい日本家屋の形である。



佐藤 一輝 (サトウ カズキ) 多摩美術大学
美術学部 環境デザイン学科／2年
課題出題時学年:1年
出題教員名:田淵 論
指導教員名:田淵 論、米谷 ひろし、古暮 和歌子、田嶋 豊、橋本 潤



15 小住宅の設計

従来の住宅は合理性だけを求め、90°グリッドによって作られている。しかし、90°グリッドによる住宅は部屋と部屋の繋がりやを薄めてしまう。そこで、60°グリッドを用いて住宅を構成する。60°グリッドによって構成される事で、部屋同士に新しい繋がり方が生れると共に、開口から差し込む光がやわらかく空間を分け、部屋に様々な表情を生み出す。



芝口 理子 (シバグチ サトコ) 千葉工業大学
工学部 建築都市環境学科 建築設計コース／2年
課題出題時学年:2年
出題教員名:片山 律
指導教員名:遠藤 正樹、片山 律、山崎 鯛介、石原 健也、千葉 貴司、後藤 伸一



16 "minimal complex" 及び "建築構法論演習"

筑波大学キャンパス内における学生寮の設計を行った。キャンパス内に建物があり、住人も学生のみという特殊な条件を生かし、住人同士の交流を適度に生み、同時にその生活の賑やかさがキャンパス内にも広がっていくような学生寮を考えた。"minimal complex"の課題でコンセプトと基本設計をまとめ、"建築構法論演習"でその計画案の平面・断面詳細図を作成した。



松本 造 (マツモト イタル) 筑波大学
芸術専門学群 デザイン専攻 建築デザイン領域／3年
課題出題時学年:3年
出題教員名:鶴沢 隆、加藤 研
指導教員名:鶴沢 隆、加藤 研



17 友だちと使う風呂小屋

普段の生活に視覚的な中間領域を設けることで、自分や周りの存在とは何かを見つめることができるのではないのでしょうか？空間に合わせた「透明度」を設定し、人の存在を曖昧に認識させることで、非日常的な「家ではない、風呂小屋」を作ろうと考えました。人と自然とのストレスのない関係性を考え直す建築です。



中津川 毬江 (ナカツガワ マリエ) 東海大学
工学部 建築学科／3年
課題出題時学年:2年
出題教員名:吉松 秀樹
指導教員名:吉松 秀樹、山崎 俊裕、渡邊 研司、古見 演良、更田 邦彦、木島 千嘉、岸本 和彦、納谷 新、武井 誠、河内 一泰

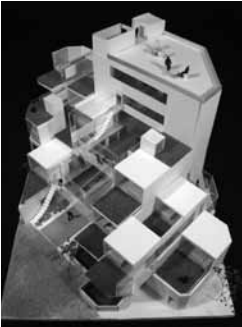


18 高齢者用集合住宅団地

仮設住宅の規格化されたパネルを再利用した集合住宅。十字形プランは車椅子の移動しやすさから考えられ、それらの角と角の組み合わせにより多様な外部空間が作り出される。また、シルバーハウジングと一般用住宅を混合させることにより、コミュニティの多様性を生み出す。自分たちで場所を選び、選択性の高い自由な使い方を促す集合のしかたの提案である。



Panthira Julayanont (パンティラー ジュラーヤノン) 東京大学
工学部 建築学科／3年
課題出題時学年:3年 出題教員名:大月 敏雄
指導教員名:西出 和彦、大月 敏雄、佐藤 淳、篠崎 淳、中村 航、岡本 和彦、木内 俊彦、成瀬 友梨



19 ○○が集まって棲む家+□□

ここは、ガーデンデザイナーを目指す学生が集うシェアハウス。それぞれの住人に専用の庭を設け、彼らはそこで自身が考える庭を表現する。共に生活をしながら、他者の作品に刺激を受け成長していく。また、外部の人と交流できるコミュニティ空間として、様々な角度から庭を望める場を設けた。ガーデニングを通して、様々な人と出会い、繋がりをもつ住宅を提案する。



出口 菜津樹 (イデグチ ナツキ) 東京家政学院大学
現代生活学部 生活デザイン学科／3年
課題出題時学年:3年
出題教員名:瀬川 康秀
指導教員名:前鶴 謙二、杉本 茂、原口 秀昭、瀬川 康秀



20 A House for 3 Archers

これは弓道の矢の軌跡をイメージして考えた設計である。この弓道場には神棚に背を向けてはいけないという規則があった。そこで、そのルールのもとと生活する住宅を考えた。もとからある神棚を始点に敷地全体に放射線を引く。矢は放射線上を飛んでいく。その放射線にかぶせ平面図を引くことで、常に神と矢の意識を感じつつ、木々に囲まれた矢道の上で神聖で静かな生活を営むことができる。



窪田 早希 (クボタ サキ) 東京芸術大学
美術学部 建築科／3年
課題出題時学年:2年
出題教員名:トム・ヘネガン
指導教員名:トム・ヘネガン、野口 晶夫、橋本 珠緒



21 集合住宅の設計

現代の集合住宅は玄関という極めて小さい土間で内外が区切られている。昔の町屋には土間があり、煮炊きや店を開いて、にぎやかな外部と交わる生活の豊かさがあった。現代はそれが薄れていると感じ、「生活行為の順序」をテーマに、土間と靴を脱いで上がる裸足の空間の境界線、住戸の内外、住戸とコモンスペースを操作していく。窮屈な住まいに豊かさが生まれ、滲み出していく。



田村 聖輝 (タムラ サトキ) 東京電機大学
未来科学部 建築学科／3年
課題出題時学年:2年
出題教員名:山田 あすか
指導教員名:川辺 直哉



22 都市のジャングルを探せ

植物を一つの要素とするのではなく植物が主とした建築を計画した。最大で4m以上突き出している大きなテラスに植えられた5mから6mの自立した木々は内部、外部を隔てるものではなく、境界線を曖昧にするものであり、植物自身の音、植物に引き寄せられる動物の音、これらの植物独自のものから、私的な空間や一つ一つの住戸のつながりや関係性が出てくるのではないかと考えた。



塩飽 佑基 (シワク ユウキ) 東京都市大学
工学部 建築学科／3年
課題出題時学年:2年
出題教員名:手塚 貴晴
指導教員名:丸目 明寛

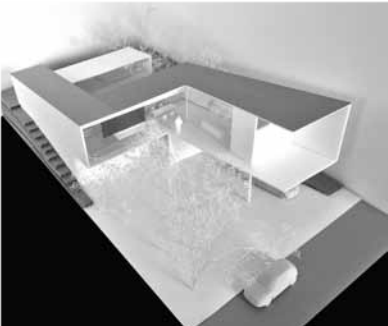


23 神楽坂に住む

賑やかな早稲田通りと対照的に細かく地割された閑静な路地を持つ神楽坂。この路地は一等地とはいえどこか儚く寂しい印象を与える。そこに新たな二世帯住宅を提案する。住宅内に路地を意識した細長いピオトープを設け、そこに動線とし、各部屋を向けることで内部と外部の隔たり、二世帯間の家族の隔たりを解消し、活動の場を巡らすことで繋がることを意識させる。



宮田 典和 (ミヤタ ノリカズ) 東京理科大学
工学部第一部 建築学科／2年
課題出題時学年:2年
出題教員名:熊谷 亮平、石橋 敦之、加茂 紀和子、薩田 英男、船木 幸子、峯田 建
指導教員名:薩田 英男



24 現代のハット

敷地にかつてあったシルバーハットから30年近くの時を経た同じ場所に、今現在の都市と住まい、住まいと住まい手の有り様を私なりのHUTとして提案する。都市というpublicな場所から住まいというprivateな場所へ、曖昧な境界を住まい手が軽やかに行き来できるよう、回遊性に配慮した設えをしている。



河野 陽子 (カワノ ヨウコ) 東京理科大学
工学部第二部 建築学科／3年
課題出題時学年:2年
出題教員名:山名 善之、上條 美枝、薩田 英男、萬代 恭博、手嶋 保、柳澤 潤、呉 鴻逸
指導教員名:上條 美枝



25 別荘＝もうひとつのイエ

「繋げる家」愛媛、東京、千葉でバラバラの生活を送る家族が集まり様々な繋がりを感じながら生活する週末住宅。内部を壁の無い一つの大空間とし、家族の繋がりを、外部では左右の緑地を繋ぐ屋根を考え屋根上を小公園のようなパブリックな空間とすることで地域との繋がりと週末住宅の公共利用の可能性を考えた。二本の導線が屋根と内部を繋げており、そこに暮らす家族をはじめ人と人とを繋げる住宅を設計した。



原 彩乃 (ハラアヤノ) 東京理科大学
理工学部 建築学科／2年
課題出題時学年:2年
出題教員名:桑原 聡
指導教員名:桑原 聡



26 家族をリスタートする住宅

大家族から核家族へと家族形態が変化したとき、食寝分離や寝室分解を基盤とする「51C型」が生まれ、住宅の転換期が訪れた。しかし現在の家族形態は核家族が破綻し、DINKSやシェアハウスというように住まいの形態は多様化した。この多様化した家族をリスタートさせるには住宅をリスタートさせる必要がある。ここに住宅の転換の一步として「13A型」を提案する。



上ノ内 智貴 (カミノウチトモツカ) 東洋大学
理工学部 建築学科／3年
課題出題時学年:2年
出題教員名:篠崎 正彦
指導教員名:篠崎 正彦、長谷部 勉



27 都心の戸建住宅

都心の住宅の難点は住宅の周辺に緑が少ない事や住宅が密集して建っているためプライバシーの確保が非常に難しいという点である。都心にとって緑のある公園は貴重な空間である。この緑を借景として住宅の空間に取り入れることはできないかと考え、外構フレームを利用して開口部を大きく取り、公園の緑を住宅の中に招き入れながらもプライバシーを確保することのできる住宅を設計した。



田中 良 (タナカリョウ) 日本大学
生産工学部 建築工学科 建築総合コース／2年
課題出題時学年:2年
出題教員名:桑田 豪
指導教員名:岩田 伸一郎

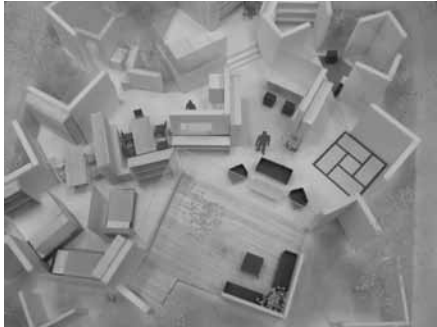


28 住居 一小さなコミュニティの生活の場を設計するー

都市の中に属性のばらばらな15人が“日常”をシェアする。日常を共有することは、自分を他人にさらけ出す機会に遭遇し全部ひっくるめて「人と関わる」こと。自分と他人の境界が、ないかはっきりするかの両極端だったシェアハウス。そこにぼかした境界を挿入する。意図的に作られた境界は、自分と他人を隔てるものでもありつながりかけにもなる。

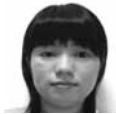


高田 汐莉 (タカダシオリ) 日本大学
生産工学部 建築工学科 建築環境デザインコース／4年
課題出題時学年:3年
出題教員名:木下 道郎、篠崎 健一
指導教員名:木下 道郎、篠崎 健一



29 ○○の住宅

津田沼キャンパスの近くに夫婦＋子供3人のための住宅を考える。敷地内に散らばった直角のL字壁。この壁が、開けた明るい空間や見えそうで見えない空間といったさまざまな空間を作り出す。さらに、3つの高さをつくることで、中ではシーンを分けプライベート空間を作り出し、外とは通行者との視線をずらすことができる。どこにいても常に家族の気配を感じることができる住宅を提案する。



竹之内 博子 (タケノウチ ヒロコ) 日本大学
生産工学部 建築工学科 居住空間デザインコース／2年
課題出題時学年:2年
出題教員名:渡辺 康、中山 繁信
指導教員名:渡辺 康、中山 繁信



30 集合住宅

家族という単位を解体し共同体としての新しい形を提示した。個人という単位を3000×3000というモジュールの中に留め家族という単位を解体、家族間ではなく住戸間でのコミュニケーションを誘発する。さらに敷地に人工地盤を敷き住民達が共同で使う共有空間としての場を作った。それを繋ぐコアとして階段室を作り、これを各家族に割り当てることで家族の関係性を再確認する。



森田 秀一 (モリタシュウイチ) 日本大学
理工学部 建築学科／3年
課題出題時学年:2年
出題教員名:佐藤 慎也、山中 新太郎
指導教員名:山中 新太郎



31 北十間川の集合住宅～川の駅をもつ水辺の集住体

「繋がり」が必要とされる計画地に新しい集合住宅の住まい方を提案することによって、繋がりを持たせられると考えました。集合したり、分散していくことによって住民同士や外部の方々との距離間の変化によって、街を繋げていきたいと考えました。



志萱 侑太 (シガヤ ユウタ) 日本大学
理工学部 海洋建築工学科／3年
課題出題時学年:2年
出題教員名:長井 義紀、水本 光
指導教員名:玉上 貴人



32 日工大学寮

東武動物公園駅西口を出てすぐの敷地に学生寮を設計した。この町は、大学とレジャーランドがあり通行人は多いが、駅前にはシャッターを閉めた店舗が目立つ。大学生と町民と訪れた人の関係は閉鎖的である。そこで学生寮に交流の場になるテラスを設け、敷地を通り抜ける人と留まる人がゆるゆるとつながる寮考えた。



伊藤 万里 (イトウマリ) 日本工業大学
工学部 建築学科／2年
課題出題時学年:2年
出題教員名:武田 光史、石黒 由紀
指導教員名:武田 光史、石黒 由紀



33 シェアハウスの設計

シェアハウスでは一人では味わうことのできない贅沢さを獲得できる。この特徴を生かすため、個人の専有スペースをできるだけコンパクトにし共有スペースを広く確保した。ボルダリングを生活の一部として取り入れ、その壁から成るシェアハウス。ボルダリングを中心に人々が集まり、新しい動線もつくられる。住人だけでなく地域との交流も視野に入れた公園のようなシェアハウスを提案する。



中川 哲 (ナカガワ アキラ) 日本工業大学
工学部 生活環境デザイン学科／2年
課題出題時学年:2年
出題教員名:足立 真、白子 秀隆
指導教員名:足立 真、白子 秀隆



34 外につながる家

作品タイトルは「エスプーマ」。これは食品を細かくムース状にするものだ。わたしは「内」に閉じた住宅を細かくムース状にするために、敷地いっぱいに2.1m四方の四角を重ねながら配置し、そこから部分的に壁を立ち上げていった。壁の向こう側を「外」と定義し、見え隠れする空間をつくることで、住宅を再構成した。その関係は、いずれ敷地からあふれ出し、街をも構成していく。



一色 紗綾 (イシキ サアヤ) 日本女子大学
家政学部 住居学科 建築デザイン専攻／2年
課題出題時学年:2年
出題教員名:葉袋 奈美子、鈴木 賢二、飯尾 昭彦、宮 晶子、福島 加津也、鈴木 陽子
指導教員名:葉袋 奈美子、鈴木 賢二、飯尾 昭彦、宮 晶子、福島 加津也、鈴木 陽子



35 歴史的建物の活用計画

同潤会江古田分譲住宅のリノベーションに際し、この住宅で一番魅力を感じた「心地よい縁側」と、特徴的な「玄関脇の洋室」を活用の主軸とし設計した。プランは、敷地周辺の幼稚園や大学に着目し「絵本屋とギャラリーのある家」を提案した。「心地よい縁側」は読書スペースとして拡張し、「玄関脇の洋室」は近隣の芸術系大学の学生作品ギャラリーとする事により、地域住民交流の場とした。



伊井 友子 (イトモコ) 文化学園大学
造形学部 建築・インテリア学科 住居デザインコース／3年
課題出題時学年:3年
出題教員名:伊郷 吉信
指導教員名:伊郷 吉信

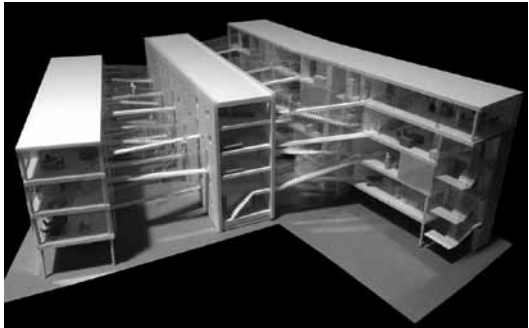


36 両者共存の家

都心の貴重な自然、外堀。しかし、人はそれを風景としか見ず、活用していない。そこで、都心と外堀を関連付け、新しいコミュニティ、新しい人の流れ、新しい外堀のあり方を提案する。外堀に建築系の学生の集合住宅を設計する。路地と外堀を住居者の作品を掲載できる道で繋ぎ、人々を外堀へ導く。一都心と自然、町と外堀、人々と住居者。両者が共存できる住宅を設計した。



駒形 早紀 (コマガタ サキ) 法政大学
デザイン工学部 建築学科／3年
課題出題時学年:3年
出題教員名:下吹越 武人
指導教員名:下吹越 武人



37 まちなかにある集合住宅

この集合住宅は様々な家族構成を持つ30戸の計画である。子どもから高齢者までの幅広い年齢層、多様なライフスタイルを持つ住民がLDK棟と個室棟の2つの棟をまたいで住戸を持ち、性質の異なる空間を行き交いながら生活を行う。個人の欲求は居場所の選択として現れ、住戸内・敷地内に回遊性を生み出し、まちの環境の一部として周囲に新たな交流が生まれることを期待する。



井津 利貴 (イツトシキ) 前橋工科大学
工学部 建築学科／4年
課題出題時学年:3年
出題教員名:石田 敏明、松井 淳、長尾 亜子
指導教員名:石田 敏明、松井 淳、長尾 亜子



38 10人が集まって住む空間

敷地は、緑豊かな遊歩道と、住宅が建ち並ぶ前面道路に挟まれている。2面性のある敷地の周辺に触手のように関わりを与え、身体的尺度の門型フレームを織り込む。そこに、10人が集う住まいの生活ストーリーを立て個々の生活の中での共有空間を広げる。住まう人の視線、導線、行動場面において、ふと互いの存在を感じられるような集合住宅を提案する。



林 佑香 (ハヤシ ユウカ) 武蔵野大学
環境学部 環境学科 都市環境専攻／3年
課題出題時学年:3年
出題教員名:水谷 俊博、伊藤 泰彦、大塚 聡
指導教員名:水谷 俊博、伊藤 泰彦、大塚 聡

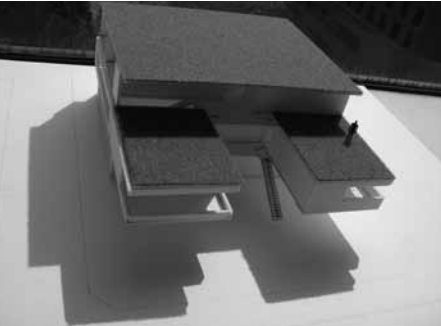


39 敷地のかたち ―都心部の住宅+αの新しい可能性を提案する―

コの字型の平面形には手前と奥が存在する。手前に階段を共有部として螺旋状に上下をつないでいく。その手前にできた共有部から奥への視線をさえぎるためにコの内側にL字の壁を設ける。各フロアにプライベート空間と共有部が共存する。手前と奥の関係性がゆるやかにグラデーションを描く住宅の提案。



若林 由理 (ワカバヤシ ユリ) 武蔵野美術大学
造形学部 建築学科／4年
課題出題時学年:3年
出題教員名:布施 茂
指導教員名:布施 茂、青木 弘司、若松 均



40 今日の役割を担う都市住宅

様々な世帯が住まうシェアハウスで、孤独感を感じず、コミュニケーションを取りながら明るくアットホームなつながりを作れるかを意識した。各住戸は戸建てのように離したり、メゾネット形式も取り入れた。内部に共用の吹抜けを作り、広々とした空間を意識。屋上はガーデニングや菜園として、時には住人同士で食事を楽しむ。カフェも併設し、住人以外の人でも落ち着ける場所とした。



高橋 溪 (タカハシ ケイ) 明海大学
不動産学部 不動産学科 デザインコース／3年
課題出題時学年:3年
出題教員名:久野 靖広、蜂屋 景二
指導教員名:久野 靖広、蜂屋 景二



41 緑道沿いの集合住宅

集合住宅を構成している要素とは「世帯」「家族」「人」である。自然界では、動物の群れや虫の卵などが集まって一つの集合体として生きている。ここに、類似点を見つけた。集合住宅でも似た形のものが集まり別の形をつくる形態がふさわしいと考えた。



大塚 悠里 (オオツカ ユウリ) 明治大学
理工学部 建築学科／3年
課題出題時学年:2年
出題教員名:大河内 学
指導教員名:吉原 美比古



42 わたしの考えるシェアハウス

ものづくり大学は、実際の作業を通してものづくりを学ぶ大学です。学生達は、工作機械や大工道具を駆使して、終日課題に取り組んでいます。しかし、卒業制作や課題制作では、作業時間が十分取れず、学生達は苦しんでいます。そこで学生達が自由に使い、共に学べる工房を持ったドミトリーを計画しました。また、地域に開かれた大学として、発表の場も大切であると考えます。



望月 元貴 (モチヅキ モトキ) ものづくり大学
技能工芸学部 建設学科 建築デザインコース／4年
課題出題時学年:3年
出題教員名:大島 博明
指導教員名:大島 博明

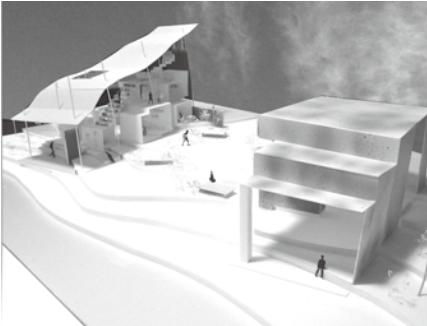


43 自然のなかの居住単位

敷地の森は新潟県の豪雪地帯。そんな過酷な自然でも森は暮らしを支える受け皿となっている。動物や虫は木の幹、葉、地面のくぼみを頼りに暮らす。森は生活で溢れているのだ。そんな豊かな森に箱を作りその中に住むのはもったいない。建築は人が森に住むための一つの頼りであり、生身では捉えきれなかった地形や隙間を捉える助けになればいい。そうして森全体を生活空間として肯定したい。



千野 優斗 (チノ ユウト) 横浜国立大学
理工学部 建築都市・環境系学科 建築EP／3年
課題出題時学年:2年
出題教員名:藤原 徹平
指導教員名:藤原 徹平



44 早稲田に寄与するキャンパスと住まい —Activate Waseda—

「微地形をつなぐ階段の家」階段には家具の要素から建築的要素まで、蹴上げ、踏みづらを変えることで様々な利用の可能性がある。現在敷地に存在する土地を切り開く手段として使用されている擁壁を一部残し、かつて川が削った地形に沿うように、様々な段差を組み合わせる事で豊かな地形を顕在化させた。



中村 絵理子 (ナカムラ エリコ) 早稲田大学
理工学術院 創造理工学部 建築学科／3年
課題出題時学年:2年
出題教員名/指導教員名:石山 修武、中川 武、入江 正之、渡辺 仁史、佐藤 滋、古谷 誠章、後藤 春彦、有賀 隆、中谷 礼仁、佐藤 宏亮、阿部 俊彦、小岩 正樹、渡邊 大志

10年連続で
東京都の合格者の半数以上は、
総合資格学院現役受講生でした。

No.1

平成24年度 一級建築士 設計製図試験

東京都 合格者占有率

59.0%

東京都合格者 1,030名中、総合資格学院現役受講生 608名

一級建築士 卒業学校別実績

[平成24年度 一級建築士設計製図試験 卒業生合格者30名以上の全学校一覧]

下記学校卒業生合格者の**60.5%**が、総合資格学院現役受講生
合格者 1,966名中 総合資格学院現役受講生 1,189名

日本大学	卒業合格者 220	総合資格学院 利用者数 139
東京理科大学	卒業合格者 133	総合資格学院 利用者数 79
芝浦工業大学	卒業合格者 91	総合資格学院 利用者数 58
早稲田大学	卒業合格者 90	総合資格学院 利用者数 50
近畿大学	卒業合格者 82	総合資格学院 利用者数 50
東海大学	卒業合格者 67	総合資格学院 利用者数 35
明治大学	卒業合格者 67	総合資格学院 利用者数 40
工学院大学	卒業合格者 66	総合資格学院 利用者数 35
京都工芸繊維大学	卒業合格者 56	総合資格学院 利用者数 37
法政大学	卒業合格者 55	総合資格学院 利用者数 35
名城大学	卒業合格者 55	総合資格学院 利用者数 37
大阪工業大学	卒業合格者 54	総合資格学院 利用者数 25
神戸大学	卒業合格者 48	総合資格学院 利用者数 31
関西大学	卒業合格者 48	総合資格学院 利用者数 28
東京都市大学	卒業合格者 46	総合資格学院 利用者数 27
千葉大学	卒業合格者 45	総合資格学院 利用者数 27
名古屋工業大学	卒業合格者 45	総合資格学院 利用者数 21
千葉工業大学	卒業合格者 44	総合資格学院 利用者数 28
中央工学校	卒業合格者 43	総合資格学院 利用者数 24
広島大学	卒業合格者 43	総合資格学院 利用者数 25
広島工業大学	卒業合格者 43	総合資格学院 利用者数 19
神奈川大学	卒業合格者 42	総合資格学院 利用者数 26
関東学院大学	卒業合格者 40	総合資格学院 利用者数 23
東京電機大学	卒業合格者 38	総合資格学院 利用者数 25
東洋大学	卒業合格者 38	総合資格学院 利用者数 29
金沢工業大学	卒業合格者 38	総合資格学院 利用者数 17
東京大学	卒業合格者 37	総合資格学院 利用者数 23
愛知工業大学	卒業合格者 37	総合資格学院 利用者数 23
大阪工業技術専門学校	卒業合格者 36	総合資格学院 利用者数 26
京都大学	卒業合格者 33	総合資格学院 利用者数 16
東京工業大学	卒業合格者 32	総合資格学院 利用者数 21
三重大学	卒業合格者 32	総合資格学院 利用者数 25
九州大学	卒業合格者 32	総合資格学院 利用者数 21
新潟大学	卒業合格者 30	総合資格学院 利用者数 20
横浜国立大学	卒業合格者 30	総合資格学院 利用者数 23
名古屋大学	卒業合格者 30	総合資格学院 利用者数 21

※卒業学校別合格者数は、試験元である
(公財) 建築技術教育普及センターの発表によるものです。



総合資格学院

東京都新宿区西新宿1-26-2 新宿野村ビル22F
TEL. 03-3340-2812 URL. <http://www.shikaku.co.jp>

開講講座

※一級建築士※二級建築士※一級建築施工管理技士※二級建築施工管理技士
※一級土木施工管理技士※宅地建物取引主任者※インテリアコーディネーター

構造設計一級建築士対策講座
平成25年12月開講予定

法定講習

※監理技術者講習※宅建登録講習※宅建登録実務講習※建築士定期講習※管理建築士講習※第一種電気工事士定期講習

※総合資格学院の合格実績には、模擬試験のみの受験生、教材購入者、無料の役務提供者、過去受講生は一切含まれておりません。※都道府県合格者は、(公財) 建築技術教育普及センター発表による。＜平成24年12月20日現在＞